

## 福岡県医師会 医学生との交流会

将来について一緒に考えてみましょう!  
キャリア、学位、留学、結婚、育児…などなど。

## 第9回 先輩医師と話そう!! in Kurume

日時：令和3年6月24日(木) 12:20～13:10  
場所：久留米大学主催：福岡県医師会  
共催：久留米医師会・日本医師会

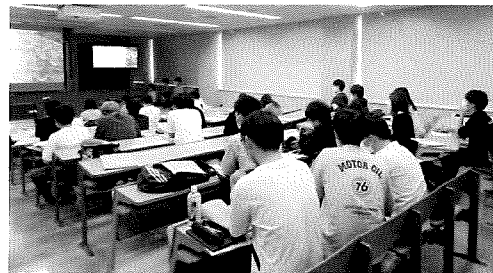
久留米大学学生交流会を2年ぶりにハイブリッド方式で開催した。医学科4年生を対象に、66名(Web参加22名)の参加があり、内村直尚学長、矢野博久医学部長、鳥村ダイバーシティ・インクルージョン委員会委員長にもご参加いただいた。医学科4年生の杉田研介さん、麻生英伸さん、梶原リサさんが進行を務め、県医師会田中真紀理事より新専門医制度についての講演後、溝口恵美子先生より下記の内容でご講演いただいた。

### 「四半世紀の在米経験を通じた 教訓と国際交流」

久留米大学医学部免疫学講座 准教授 溝口 恵美子

私は、1992年7月(当時本学大学院3年)から2016年4月に現職として帰学するまでの24年間、ハーバード大学附属マサチューセッツ総合病院(MGH)病理学講座および消化器内科での研究生活に従事いたしました。この貴重な経験を、以下の3部構成でお話させていただきました。

まず、Part-1では、夫との結婚を機に留学し、husband-and-wife teamとしてMGHで炎症性腸疾患の研究に携わった経験と、その間に知り合った多くの著明な研究者・臨床家からのアドバイスを中心に進めていきました。“Think of the worst-case scenario”や“Patients will answer you”は、現在の医学研究や教育に通じるものがあると思います。次のPart-2では、アメリカにおいて、履歴書に年齢を書く欄がないことや定年制度がないこと(Age Discriminationの排除)、性差別的な発言で失職することがあること(Sexual Discriminationの排除)、多民族国家であること(Racismに敏感)などの実例を挙げて説明させていただきました。Part-3では、米国ブラウン大学と2018年1月に大学間協定を結んだことを機に、交換留学制度の安定的な継続と本学の国際化を目指すことの重要性を説明いたしました。今後、国際的な視野を持った医師を目指す方が、一人でも多く本学から輩出されることを願ってやみません。



久留米大学は、文部科学省令和2年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)に選定されました。本事業は、女性研究者の研究力向上や女性の上位職への積極的な登用を推進するものです。選定を機に、久留米大学は、ダイバーシティ・インクルージョン(DI)推進室を設置し、事業推進のためのKG-PROJECT(K:Kurume, G:Genki)を立ち上げました。今後、大学病院のD&I委員会と連携し、全学で頑張っており、皆様応援のほど、よろしくお願いたします。 <http://genki.kurume-univ.jp/>  
DI推進室室長 矢野博久(副学長、医学部長、病理学講座主任教授)